

2019年度 決算報告

2020年5月14日

持続可能な社会の 実現に向けて

富士通株式会社
代表取締役社長

時田 隆仁

1. 新型コロナウイルスへの対応

お客様、お取引先様、従業員とその家族、地域社会を含むステークホルダーの
生命の安全を最優先とし、感染予防と感染拡大の防止に努めるとともに、
事業継続活動に取り組み、社会的責任の遂行に努めます。

1. (2)

新型コロナウイルスへの対応状況



国内



自治体様、医療機関様にAIチャットボット「CHORDSHIP」を提供



テレワーク支援のため仮想デスクトップサービス(V-DaaS)を無償提供



小中学校にプログラミング教材を無償提供



研究者に科学技術文献データサービスを無償提供

海外



スペインの臨時病院にITインフラ導入



英国で創薬プラットフォームの検討開始 (POLARISqb社との共同開発)

社内



原則テレワーク勤務



コロナ関連ポータルサイトを設置

1. (3)

新型コロナウイルスによる社会変化における富士通の役割 FUJITSU

- 社会のオンライン化が加速する中、多様な業種理解とデジタルテクノロジーを活用し、「人」と「データ」を中心とした新たな生活様式を築く



1. (4)

社会変化に対する富士通のデジタルテクノロジーの活用例 FUJITSU



研究

- デジタルアニーラによる創薬プロセス高速化
(ペプチドリーム社との共同研究)
- スーパーコンピュータを活用した構造予測



医療

- 医療機関での感染リスク軽減
(オンライン診療など)
- AIを活用した診療の効率化



行政

- ガバメントクラウドによるシステムの高信頼化
- 行政サービスのスマート化

2. FY19の実績と継続する取り組み

2. (1)

富士通の目指す姿



*DX : デジタル技術とデータを駆使して革新的なサービス
やビジネスプロセスの変革をもたらすもの

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に信頼をもたらし、
世界をより持続可能にしていけることです



2. (3) パーパス実現のための行動

■ 自らを変革し、新たな価値を創造していくことで、パーパスを実現する

人を中心にデータとモノ
を結びつけることで、
イノベーションを生み、
お客様や社会に価値を創造

多様性を持ち人々の課題に
共感し必要な技術・能力を
高めていく。

自らの変革



価値創造



社会に
信頼をもたらす

世界をより持続可能に



環境



社会



経済



2.(4) 経営成績

■ テクノロジーソリューション領域において増収増益を達成

(単位：億円)

	2018	2019	前年度比
売上収益	39,524	38,577	△946
営業利益	1,302	2,114	+812
営業利益率	3.3%	5.5%	+2.2%
当期利益	1,045	1,600	+554

テクノロジーソリューション*

売上収益	31,237	31,632	+395
営業利益率	4.4%	5.9%	+1.5%

*テクノロジーソリューションにその他/消去又は全社を加味した値として

2. (5) FY19の主な取り組みとトピックス

■ 主な取り組み

日本国内 ビジネス

- ・産業/流通、公共など幅広い業種でサービスビジネスの売上を拡大
- ・官公庁/自治体を中心とした大型案件を確実に推進し利益率を向上

海外 ビジネス

- ・プロダクト生産体制の見直しと採算性の良い拠点への集中
- ・デリバリー体制の一本化

社内

- ・人事/採用制度を強化：ジョブ型人事制度の導入開始、高度人材採用

■ トピックス

- ・スーパーコンピュータ「富岳」で世界トップの消費電力性能を実証
- ・DXビジネスを牽引する新会社「Ridgelinez」を設立
- ・5Gソリューションの実証のためのコラボレーションラボ構築

2. (6)

新フォーメーションによる課題解決力強化



- 社会/技術動向の分析、DXビジネス推進を担う組織との新しいフォーメーションで、新たな社会づくりに貢献

DXを牽引



Ridgelinez(リッジラインズ)

お客様視点で経営課題や事業課題など、本質的・根源的な課題解決に取り組み、最適なテクノロジーによるDXを支援

シンクタンク機能の強化



富士通 フューチャースタディーズ・センター

国際情勢と先端テクノロジーの動向を横断的に調査・分析し、富士通グループの中長期戦略の策定・実行を支援

日本の社会課題解決に貢献

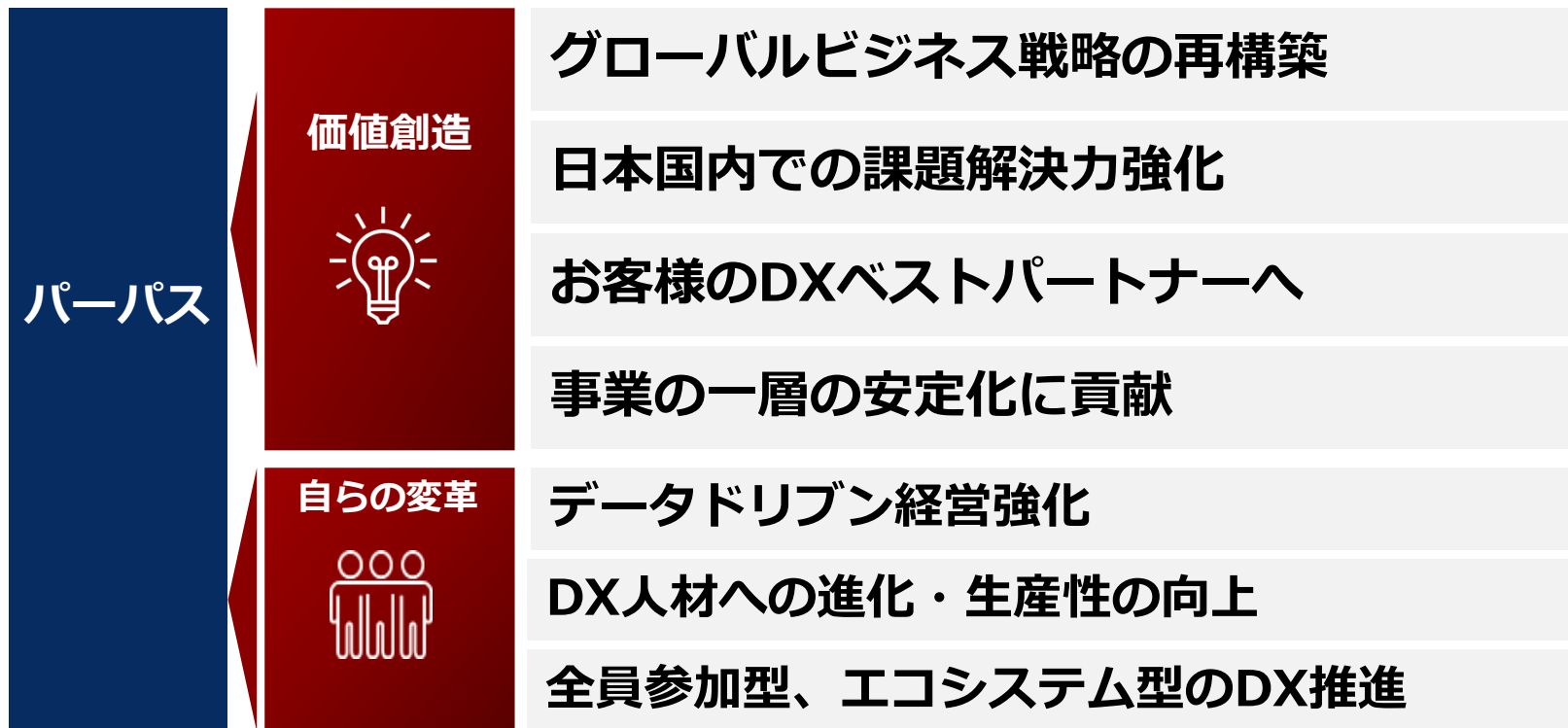


国内新会社

- ・ お客様システムのモダナイゼーションとビジネスのDXを強力に推進
- ・ 複雑化する社会課題への取り組みを通しサステナブルな社会づくりに貢献

2. (7) 継続的に実行する取り組み

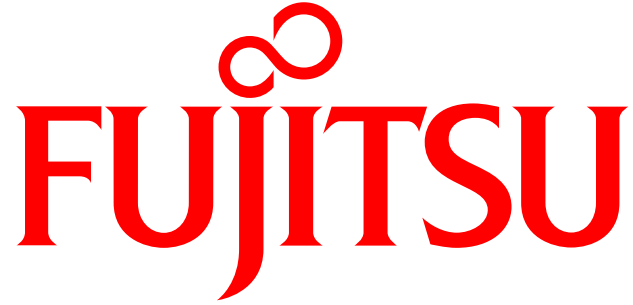
■ お客様への提供価値の創造と自らの変革に継続的に取り組む



- 2020年度の業績見通しおよび経営方針の進捗レビューについては今回は公表を見送ります。
- 新型コロナウイルスの影響が合理的に算定できる状況になり次第、速やかに公表いたします。
- 2020年度以降も成長に向けた施策を確実に進めていきます。



イノベーションによって社会に信頼をもたらし、
世界をより持続可能に



shaping tomorrow with you

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向（特に日本、欧州、北米、中国を含むアジア）
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 技術開発競争による市場ポジションの変化
- 部品調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 不採算プロジェクト発生の可能性
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生のリスク
- 会計方針の変更